



学校だより

2月号

横浜市立六つ川台小学校

令和3年1月29日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawada/>

E-mail:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp

じぶん みが 自分を磨く

ふくこうちょう うすだ ひであき
副校長 薄田 秀明

ある日、校内を回っていると1年生の男子が私に近寄ってきて、「副校長先生、2年生の字が上手です。」と目をキラキラと輝かせながら話しかけてきました。私は、「そうだね。〇〇さんも上手に書いていたね。」と返すと、照れくさそうに「そうかな。2年生になったら、もっと上手になるかな。」すかさず「そうだな。いつも丁寧に書こうと思っていたら、もっともっと上手になるよ。」と答えたら、みんなの列に戻っていきました。校内書写展で教室前に飾られてある2年生の作品を1年生がじっと見つめていました。きっと2年生の字を見て感動したと同時に、自分も成長したいという思いをもったのでしょう。みんなの列から離れて、私のところにやってきたのでした。(校内書写展の様子は学校ホームページに掲載されているので、ご覧ください。)学校の中には、いろいろな掲示物があります。図画工作の絵画や立体作品、書写、学習の軌跡、係活動のポスターや計画書など子どもたちが学び、感じたことが形になって表れています。子どもたちは、その掲示物から刺激を受け、自分の成長に役立てようとしています。“あっ、この色素敵だな。私の作品に取り入れよう”“へー、〇〇さんはこんな風に考えていたんだ”“何でこんな形になっているの。すごいな”“私もやってみたい”と心の中で成長する瞬間の声や挑戦しようと思える声をあげていると思います。人には無限の可能性がありますが、しかし、その力を発揮できることは必ずしもイコールではありません。人は人との関係性の中で磨かれていきます。家族、友人、地域、学校、習い事・・・コロナ禍で生活様式が変化し、身体的な距離をおかなくていけませんが、こんな時だからこそより心の距離は縮め、絆を強くしていきたいものです。

ある教室の黒板の横に「聞き方名人」という掲示物がありました。授業で他の児童の意見を「聞く」ことに重きを置くため、「話す」ことを強調した方が主体的な学びを促すかと思いきや、そうとは限りません。ことわざに「話し上手は聞き上手」とあり、意味は「本当に話が上手な人は、他人の話をよく聞いて、自分の話をする。」ということです。「自分が何を話すか」ばかりに気を取られ、人の話の内容をほとんど覚えていないことがあります。聞くことに集中すれば、自分の考えとの共通点も相違点もよくわかり、その気づきが「学び」となります。さらに皆が真剣に聞いてくれることで、話す側も言葉に自然と熱がこもります。対話とは「互いの語る言葉の『意味』を共有し、理解し合う」ことではないでしょうか。これも人と人との関係性の中で磨かれていきます。今年度もあと2か月となりました。子どもたちも学年のまとめと来年度に向けての準備の期間となりますが、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。